「これは、両親が昔から好きだったケーキなんです」

いかにもうれしそうな表情で「マロンシャンティイ」を紹介してくれたのは、お取り寄せグルメなどにも詳しいエッセイストの酒井順子さん。

「ほとんどが栗と生クリーム、あとは少しだけスポンジも使っていますが、そのシンプルさが潔くていいなと思っています。特に父親がこの味を好きで、昔はパレスホテル東京までよく食べに行っていました。でも昨年からついに、伊勢丹新宿店でも買えるようになったんですよね。両親が生きていたら、ぜひ教えてあげたかったです」

そのご両親が住んでいた酒井さんの実家は、新宿から電車で1本の場所。酒井さんは子どもの頃から伊勢丹新宿店へ通っていたのだそう。

「実家から離れてみると伊勢丹新宿店のありがたみが身にしみて。実家のある町に戻った今、また頼りにしています。最近は少なくとも月に1回、時季によってはそれ以上かな。外出で新宿駅を通ると、伊勢丹によってから帰ろうかなと自然に足が向くことが多いですね」

特に利用するのは、駅から地下道で気軽に行ける食料品フロア。

〈パレスホテル東京スイーツブティック〉
「マロンシャンティイ」
1個 901円 カフェ エ シュクレ

1961年のパレスホテル開業時から変わらぬ伝統のスイーツ。粗めに裏ごしした栗の豊かな風味と、ふんわりとのせた生クリームの軽やかな食感にファンが多い。

「地下1階の催物は毎回行きますし、地下2階の〈ビューティアポセカリー〉も好き。家では基本的に私が料理するのですが、1人で食事をする日は、自分が好きなお惣菜ばかりを買って帰るのがちょっとした楽しみです。あと、地方で買った調味料を切らしたときも、伊勢丹なら置いてあることが多い。そんな風に、何でも見つかる安心感がありますね」

伊勢丹は買物をする場所であると同時に「娯楽の場」だと表現してくれた酒井さん。

「ちょっとくさくさしてしまった日でも、行けば楽しい気分になれるオアシスのような場所。特別な目的がなくても、3階でふらりと洋服を見たり、6階の催物場で『もう年末か』と季節を感じたり…なじみの場所をパトロールするのが楽しいです」

自身の〝伊勢丹好き〟を改めて自覚したのは、3年前のパンデミックのときでした。

「外出が制限される直前のタイミングで、リュックを背負って駆け込んだのが伊勢丹新宿店でした(笑)。そのときは食料品や愛用のボディローション、洋服などを買いました。外出する楽しみが減ってしまう前に、地元のスーパーではできない、気分が上がるお買物をしたかったんだと思います。デパートという存在を、私はこんなに頼りにしていたんだなぁ!って、あのとき改めて気付かされましたね」

上／〈パレスホテル東京スイーツブティック〉で、小さい頃から好きな「マロンシャンティイ」を。「超絶技巧のケーキよりも、果物を使ったシンプルなタルトや、昭和っぽい昔ながらの味わいのスイーツの方が好みなんです」。〈サルメリア ガリバルディ〉では、お気に入りの「ベシャメルとラグーのラザーニェ」を購入。